

実務的科目一覧

色付けされた科目は、実務的教員による実務的教育を行う科目となる。

スポーツ柔整科 2024年度入学(JT24S)

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位	時間	1年次		2年次		3年次	
							前	後	前	後	前	後
基礎分野	科学的思考の 基盤人間と生活	必修	コミュニケーション理論	演習	2	30	30					
		必修	情報リテラシー	演習	2	30		30				
		必修	生物学	講義	4	30	30					
		必修	栄養学	講義	2	30	30					
		必修	スポーツ栄養学	講義	2	30		30				
		必修	医用英語	講義	2	30	30					
		必修	スポーツコンディショニング論	講義	2	30		30				
専門基礎分野	人体の構造 と機能	必修	解剖学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅱ(運動器：骨格系,筋系)	講義	2	60	30	30				
		必修	解剖学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	解剖生理学	講義	2	60					30	30
		必修	運動学	講義	2	60			30	30		
		必修	高齢者の生理学的特徴・変化	講義	1	30						30
	必修	競技者の生理学的特徴・変化	講義	1	30							30
	疾病と傷害	必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	60			30	30		
		必修	一般臨床医学Ⅱ(高齢者)	講義	2	30						30
		必修	病理学	講義	2	60			30	30		
		必修	外科学概論	講義	2	30					30	
		必修	整形外科学	講義	2	60			30	30		
		必修	リハビリテーション医学Ⅰ	講義	2	30			30			
	必修	リハビリテーション医学Ⅱ(高齢者の運動機能維持・回復)	講義	1	30					30		
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	30						30
	保健医療福祉と 柔道整復の理念	必修	関係法規	講義	1	30				30		
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	60			30	30		
		必修	職業倫理	講義	1	30						30
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	30		30				
必修		柔道Ⅱ	実技	1	30			30				
必修		柔道Ⅲ	実技	1	30				30			
必修	柔道Ⅳ	実技	1	30						30		
社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	30		30					
専門分野	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	2	60	30	30				
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ(外傷保存療法の経過及び治癒の判定)	講義	2	60			30	30		
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	60	30	30				
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	60			30	30		
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ(物理療法機器の取扱い)	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ(柔道整復師の臨床的判定・医用画像)	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ	講義	2	60					30	30
		必修	臨床柔道整復学Ⅸ	講義	2	60					30	30
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅱ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	60	30	30				
		必修	柔道整復実技Ⅳ(高齢者の外傷予防)	実技	1	30			30			
		必修	柔道整復実技Ⅴ(競技者の外傷予防)	実技	1	30				30		
		必修	柔道整復実技Ⅵ	実技	2	60			30	30		
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	2	60			30	30		
必修		柔道整復実技Ⅷ	実技	2	60					30	30	
必修		柔道整復実技Ⅸ	実技	2	60					30	30	
必修		柔道整復実技Ⅹ	実技	2	60					30	30	
必修		柔道整復実技Ⅺ	実技	2	60					30	30	
臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45					
	必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45				
	必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45			
	必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45					45		
					106	2910	450	525	525	525	495	390
実務的授業合計					55	1710	240	315	255	225	345	330

実務的科目一覧

色付けされた科目は、実務的教員による実務的教育を行う科目となる。

スポーツ柔整科 2022・2023年度入学(JT22S・JT23S)

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1年次		2年次		3年次	
							前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	必修	国語表現	演習	2	32	32					
		必修	パソコン	演習	2	32		32				
		必修	生物学Ⅰ	講義	2	32	32					
		必修	生物学Ⅱ	講義	2	32		32				
		必修	栄養学Ⅰ	講義	2	32	32					
		必修	栄養学Ⅱ	講義	2	32		32				
		必修	体力学	講義	2	32	32					
専門基礎	人体の構造と機能	必修	解剖学Ⅰ（運動器系）	講義	4	64	32	32				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	4	64			32	32		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	64	32	32				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	64			32	32		
		必修	高齢者・競技者の生理学的特徴・変化	講義	2	32				32		
		必修	運動学	講義	2	64			32	32		
	疾病と傷害	必修	病理学	講義	2	64			32	32		
		必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	64			32	32		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	32					32	
		必修	外科学概論	講義	2	32			32			
		必修	整形外科学	講義	2	32			32			
	必修	リハビリテーション医学	講義	2	64			32	32			
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	32		32				
	保健医療福祉と柔道整復の理念	必修	職業倫理	講義	1	16	16					
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	64	32	32				
		必修	関係法規	講義	1	32	32					
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	32		32				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	32			32			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	32				32		
	必修	柔道Ⅳ	実技	1	32					32		
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	16	16					
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	1	32		32				
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	64	32	32				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	64			32	32		
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	1	32				32		
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅵ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅶ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅷ（外傷の保存療法）	講義	1	16			16			
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	64	32	32				
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	2	64	32	32				
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	64			32	32		
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ	講義	2	64			32	32		
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ（柔道整復術の適応）	講義	2	32						32
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	64	32	32				
		必修	柔道整復実技Ⅱ	実技	2	64			32	32		
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅳ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅴ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅵ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅷ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅸ（高齢者・競技者の外傷予防）	実技	2	32						32
	臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45		45				
		必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45			
		必修	臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45		
		必修	臨床実習Ⅳ	実習	1	45						45
	実務的授業合計					104	2772	877		954		941
					55	1684	397		410		877	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会保障制度 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

社会保障制度の概要、保険診療の種類や基準について学び、担当教員の実務経験を基にした指導を行い、実践力を備えた人材へと成長を促す。

2 到達目標

社会保障制度、介護保険の内容を把握する。

3 授業の方法

教科書・配布資料を使用した講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料に関する復習をし、自己の弱点を克服してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」

医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

資格取得後も必要な知識です。一緒に頑張りましょう。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (社会保障制度)

回数	授業内容
1	社会保障とは ①3つの機能 ②社会と今後の社会保障
2	社会保障制度とは ①公的年金 ②仕組み ③介護保険の意義 ④社会公的公衆の意義
3	医療保険制度とは ①医療保険の目的意義 ②保険診療の概要
4	医療保険制度とは ③医療保険制度の現状と課題
5	医療保険制度とは ④診療報酬制度
6	療養費制度の概要 ①療養費とは
7	療養費制度の概要 ②柔道整復療養費
8	療養費制度の概要 ③柔道整復療養費の推移
9	療養費制度の概要 ④療養費の概要
10	療養費制度の概要 ①-1 療養費の算定 a.療養費料金 b.初検料 c.相談料
11	療養費制度の概要 ①-2 療養費の算定 d.時間外 e.往療料 f.再検料
12	療養費制度の概要 ①-3 療養費の算定 g.施術料 h.一部負担金
13	療養費請求のケーススタディー
14	総復習
15	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復術の沿革、歴史を医学史と並行して学び、柔道整復術の施術方法を知るために、基礎医学である解剖学及び生理学の学習をしながら、骨の機能と構造を理解し、骨折についての基礎を学習する。講師の実務経験をもとに、臨床例も紹介する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症狀などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につける必要があります。理解を深めるためにも授業に集中し、不明な点は後回しせずとその都度質問をするように心掛けてください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (基礎柔道整復学 I)

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復術および柔道整復師の沿革 P2～P6
2	業務範囲とその心得および柔道整復師倫理綱領
3	総論 — 人体に加わる力、損傷時に加わる力①
4	損傷時に加わる力② — 外傷のメカニズム
5	骨の形態と機能①
6	骨の形態と機能②
7	骨損傷の概説：骨損傷に関わる力，骨損傷の分類①：性状による分類
8	骨損傷の分類②：程度による分類，骨折線の方向による分類
9	骨損傷の分類③：外創との交通の有無による分類，外力の働いた部位による分類
10	骨損傷の分類④：外力の働き方による分類，部位による分類，経過による分類
11	骨折の症状：局所症状，全身症状①
12	骨折の症状：局所症状，全身症状②
13	骨折の症状：局所症状，全身症状③
14	骨折の症状 まとめ復習
15	試験解説
16	骨折の合併症：併発症①
17	骨折の合併症：併発症②
18	骨折の合併症：続発症①
19	骨折の合併症：続発症②
20	骨折の合併症：後遺症①
21	骨折の合併症：後遺症②
22	小児骨折の特徴①
25	小児骨折の特徴②
26	高齢者骨折の特徴
27	骨折の癒合日数，骨折の治癒経過
28	骨折総論まとめ復習
29	まとめ復習
30	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の概要

関節損傷および軟部組織損傷各論を学ぶうえの基礎として、各組織の構造と機能、それらの損傷総論を学習し、理解する。
各論では顎関節脱臼、脊椎の脱臼などを、講師の実務経験を例に挙げて、学習する。

2 到達目標

関連ある解剖学の学習を同時におこないながら、関節損傷の分野を理解していく。
解剖学などの専門基礎分野を学習することで、柔道整復師が業務として取り扱う運動器の損傷についての基礎を理解することを目標とする。

3 授業の方法

板書を基本に、教科書と資料をもとに授業を展開していきます。

4 成績評価方法

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には、出席状況、学習意欲なども評価対象とします。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業の前に、その日にやる範囲の教科書を読んでおいてください。授業終了後には、その日のうちに必ず復習してください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編 改訂第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

学問は基礎をしっかりと理解することが重要です。暗記ではなく、一つひとつを確実に理解するように、日々の学習を心掛けてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション / 関節の構造と機能① — 解剖
2	関節の構造と機能②
3	関節の構造と機能③
4	関節損傷の概説
5	関節損傷の分類①
6	関節損傷の分類②
7	鑑別診断を要する類症
8	関節構成組織損傷（1）靭帯，関節包の損傷
9	関節構成組織損傷（2）関節周辺を通過あるいは起始停止する筋・腱の損傷
10	関節構成組織損傷（3）関節軟骨損傷
11	関節構成組織損傷（4）その他関節構成組織の損傷①
12	関節構成組織損傷（4）その他関節構成組織の損傷②
13	前期のまとめ①
14	前期のまとめ②
15	定試験解説、まとめ復習
16	脱臼：定義と概説、発生頻度
17	脱臼の分類①
18	脱臼の分類②
19	脱臼の分類③
20	脱臼の症状
21	脱臼の合併症
22	まとめ復習
23	脱臼各論 — 頭部、顔面の脱臼 A 顎関節脱臼①
24	A 顎関節脱臼②
25	B 頸椎の脱臼
26	C 胸椎の脱臼
27	まとめ復習①
28	まとめ復習②
29	まとめ復習③
30	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

- ・運動器の軟部組織をその形態と構造を学びながら、それらの損傷についての基礎を学習する。
- ・頭部、体幹の軟部組織損傷の各理論を学習する。
- ・講師の実務経験で得た臨床例を挙げて説明し、各損傷の要点を理解する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を理解し、各外傷の発生機序やそれらの特徴的症状などを学び、施術に繋がる基礎知識を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%，授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度や質問の返答など、授業に対して積極的な姿勢も成績評価に加味します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って、事前に教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復師の仕事を理解するためには、専門分野の知識を身につけなければなりません。理解力を高める為にも、授業に集中し、不明な点は後回しせずに、その都度質問をするなりして、吸収してください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有： 柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (基礎柔道整復学Ⅲ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション / 運動器の軟部組織
2	A 筋の形態と機能①
3	A 筋の形態と機能②
4	B 筋損傷の概説
5	C 筋損傷の分類①
6	C 筋損傷に分類②
7	D 筋損傷の症状、E 筋損傷の治癒機序
8	F 筋損傷の予後
9	A 腱の構造と機能①
10	A 腱の構造と機能②、 B 腱損傷の概説
11	C 腱損傷の分類①
12	C 腱損傷の分類②
13	E 腱損傷の治癒機序
14	まとめ復習
15	定期試験の解説
16	末梢神経の損傷 — A 神経の構造と機能①
17	A 神経の構造と機能②
18	B 神経損傷の概説、 C 神経損傷の分類①
19	C 神経損傷の分類② D 末梢神経の症状①
20	D 末梢神経の症状②
21	E 末梢神経の治癒過程
22	まとめ復習
23	頭部、体幹の軟部組織損傷 A 頭部、顔面部の軟部組織損傷
24	B 頸部の軟部組織損傷①
25	B 頸部の軟部組織損傷②
26	C 胸・背部の軟部組織損傷①
27	C 胸・背部の軟部組織損傷①
28	D 腰部の軟部組織損傷
29	まとめ復習
30	定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

柔道整復師の日常業務で行える施術内容、心得を学び、基礎知識を学習し、頭部から体幹、腰部にかけての骨折について学ぶ。法（治療法）の基礎を学習する。
担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴等を開設する。

2 到達目標

損傷時の理論を学び、習得し、将来に備えて身につける。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、資料やスライドを使用し学習する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進行計画に沿った教科書の復習を行い、教科書をただ読むだけではなく、要点をノートに書き、自分に沿ったまとめノートを作成する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として必要な知識を習得し、国家試験合格を目指してください。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

科目名 (基礎柔道整復学Ⅳ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	治療法について
3	整復法：徒手整復時の配慮 ①整復目的の説明と理解 ②整復環境の整備
4	整復法：徒手整復時の配慮 ③既往歴ならびに他疾患との関連 ④合併症の確認
5	整復法：徒手整復時の配慮 ⑤整復手技の確認 ⑥整復手技の注意
6	骨折の整復について
7	非観血的整復の要点 ①早期の整復 ②整復とは
8	非観血的整復の要点 ③整復が不要な場合 ④整復が適応しない場合
9	整復の一般原則について
10	整復の分類について (牽引直圧・屈曲整復法)
11	脱臼の整復法について
12	脱臼の整復法 (非観血的整復の要点・原則・分類)
13	軟部組織損傷の初期処置 (捻挫・筋挫傷・初期処置)
14	固定法について (固定施行時の配慮・固定の目的)
15	試験返却&解説
16	頭部・体幹の骨折 / 頭部・顔面の骨折 ①-1 頭蓋骨骨折
17	頭部・体幹の骨折 / 頭部・顔面の骨折 ①-2 頭蓋骨骨折
18	脳震盪について
19	頭部・体幹の骨折 / 頭部・顔面の骨折 ①-1 顔面頭蓋骨折
20	頭部・体幹の骨折 / 頭部・顔面の骨折 ①-2 顔面頭蓋骨折
21	頸椎の骨折 ①-1 上位頸椎骨折
22	頸椎の骨折 ①-2 上位頸椎骨折
23	頸椎の骨折 ①-1 中下位頸椎骨折
24	頸椎の骨折 ①-2 中下位頸椎骨折
25	胸椎の骨折 ①-1 上部胸椎棘突起骨折
26	胸椎の骨折 ②-1 胸椎の椎体骨折
27	胸椎の骨折 ②-2 胸椎の椎体骨折
28	腰椎の骨折 ①
29	総復習
30	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 1年

1 授業の内容

- ・柔道整復師の後療法を学習する。
- ・指導管理を学習する。
- ・上肢骨折の各論を学習する。
- ・臨床現場で使用する物理機器などを紹介し、使用方法を説明する。
- ・実務経験のある教員による学習。

2 到達目標

柔道整復師として損傷への施術方法を学び、柔道整復術の基礎を習得する。
上肢骨折（鎖骨骨折から上腕骨骨折）の各論を学び、各損傷の理論を理解する。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、板書を中心に、スライドや資料を使って学習する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には、出席状況や授業への取り組み方を評価に加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習は、授業進度計画に沿った教科書の内容を読むこと。毎回、授業終了後にその日のうちにノート、教科書を見直し、復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として働くために必要な知識になり、国家試験の合格にも繋がるので、授業は集中して、理解を深めてください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所にて施術管理者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床柔道整復学 I)

回数	授業内容
1	後療法について A 用量 B 患者の準備
2	C 手技療法①
3	C 手技療法②
4	D 運動療法①
5	D 運動療法②
6	D 運動療法③
7	E 物理療法①
8	E 物理療法②
9	E 物理療法③
10	E 物理療法④
11	指導管理 A 患者とその環境の把握 B 患者の環境に対する指導管理
12	C 自己管理に対する指導
13	まとめ復習①
14	まとめ復習②
15	試験の解説
16	上肢骨折各論 A 鎖骨骨折①
17	A 鎖骨骨折②
18	B 肩甲骨の骨折①
19	B 肩甲骨の骨折②
20	C 上腕骨近位の部骨折①
21	C 上腕骨近位の部骨折②
22	C 上腕骨近位の部骨折③
23	D 上腕骨骨幹部骨折①
24	D 上腕骨骨幹部骨折②
25	E 上腕骨遠位の部骨折①
26	E 上腕骨遠位の部骨折②
27	E 上腕骨遠位の部骨折③
28	まとめ復習①
29	まとめ復習②
30	後期定期試験

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技 I ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 1年

1 授業の概要

- ・基本包帯法の技術を習得。
- ・各部位への包帯法の技術を習得。
- ・軟性材料、硬性材料の作成、固定法の習得。
- ・講師の実務経験から得た固定法のポイントを説明し、実践する。

2 到達目標

- ・基本包帯法、冠名包帯法、各部位の包帯固定の基礎技術を身に着ける。
- ・硬性材料の作成方法を習得する。

3 授業方法

- ・教科書を用いた講義及び講義内容に関連する実技の実践。

4 成績評価方法

- ・定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

- ・身だしなみ及び言葉遣いも評価の対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

- ・授業時間外の反復練習が技術向上の鍵です。
- ・様々な体型や体格の方、違う性別の方に包帯を巻くことも大切です。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「包帯固定学」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・実技編第2版」南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・包帯固定学は柔道整復師の基本であり、習得することによりテーピングなどの応用にも繋がります。臨床現場でも必要な技術であり、技術が身に付くことの楽しさを学んでほしいです。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

1 1 科目名 (柔道整復実技 I)

回数	授業内容
1	前期ガイダンス
2	固定及び固定材料について
3	巻軸帯の巻き方と注意事項、巻軸帯の巻き戻し
4	基本包帯法 ①環行帯、螺旋帯、蛇行帯
5	基本包帯法 ②環行帯、螺旋帯、蛇行帯
6	基本包帯法 ③環行帯、螺旋帯、蛇行帯
7	基本包帯法 ①折転帯、亀甲帯、麦穂帯
8	基本包帯法 ②折転帯、亀甲帯、麦穂帯
9	冠名包帯法①
10	冠名包帯法②
11	冠名包帯法③
12	三角巾を用いた固定
13	基本包帯法の応用①
14	基本包帯法の応用②
15	前期試験の解説
16	各部位 肩部の包帯
17	各部位 上腕部から肘関節部の包帯
18	各部位 前腕部から手関節部の包帯
19	各部位 手指の包帯
20	各部位 下腿部から足関節部の包帯
21	硬性材料① - 厚紙副子固定 上肢
22	硬性材料② - 厚紙副子固定 下肢
23	硬性材料③ - アルフェンス固定 上肢
24	硬性材料④ - アルフェンス固定 上肢
25	硬性材料⑤ - プライトン副子固定 上肢
26	硬性材料⑥ - プライトン副子固定 下肢
27	硬性材料⑦ - キャストライト
28	硬性材料⑧ - キャストライト
29	後期まとめ
30	後期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 1 年

1 授業の内容

- ・柔道整復術の診察法の基礎を学ぶ。
- ・テーピングの基礎技術を学ぶ。
- ・スポーツコンディショニングの基礎実技を学ぶ。
- ・講師のスポーツ現場での実務経験を活かし、より実践的な手法を学ぶ。

2 到達目標

診察法の手順を、医療面接をもとにロールプレイなどを行いながら学んでいく。
テーピングの種類、巻き方、応用などを実技で習得する。

3 授業の方法

相互に施術者と患者になりながら、診察法の基本を、ロールプレイを通して行う。
互いにテーピングを施行し、その効果を評価し合う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

実習着は必ず着用してください。着用のない場合は減点対象となります。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

各自復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編」（改定第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・臨床力を身に付けるために、集中して取り組んでください。
- ・実習着は常に清潔を心掛けてください。爪は短くし、装飾品（指輪，ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめるようにしてください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

回数	授業内容
1	ガイダンス：テーピング理論（1）
2	テーピング理論（2）
3	テーピングの実際：テーピング基礎（1）
4	テーピングの実際：テーピング基礎（2）
5	テーピングの実際：テーピング基礎（3）
6	上肢テーピング①
7	上肢テーピング②
8	上肢テーピング③
9	上肢テーピング④
10	下肢テーピング①
11	下肢テーピング②
12	下肢テーピング③
13	下肢テーピング④
14	前期まとめ
15	定期試験の解説
16	スポーツコンディショニングの基礎：コンディショニングとは
17	コンディショニングに関する要因
18	コンディショニングを崩す要因とは
19	コンディショニングのポイント①
20	コンディショニングのポイント②
21	プライマリーチェックの指標
22	スポーツ障害の発生要因
23	ストレッチング理論①
24	ストレッチング理論②
25	各運動領域におけるストレッチング①
26	各運動領域におけるストレッチング②
27	各運動領域におけるストレッチング③
28	各運動領域におけるストレッチング④
29	後期まとめ
30	定期試験の解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

- ・柔道整復術の各種固定法および徒手検査法を、講師の実務経験を取り入れて学ぶ。
- ・**臨床実習前の適正、適応試験の実施。**

2 到達目標

- ・柔道整復術を基本技法の固定材料の種類、特性を学び、それらの実践技術を修得する。
- ・徒手検査法の知識と技術を修得する。

3 授業の方法

実習室において実技実習を行い、施術法を体得する。

4 成績評価方法・基準

定期試験（実技 50%、筆記 30%）、授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

出欠席、容姿（実習着、髪色、爪など）、衛生材料の管理を授業態度として評価します。

6 授業時間外学習

授業進行計画を参考に、事前に内容を確認、予習をする。実習で学んだ実技内容を必ず復習する時間をつくること。繰り返しの実技演習が技術を修得す上で重要なことを認識すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」南江堂

資料配布

8 学生へのメッセージ

- ・柔道整復術の基本である固定法の基礎を身に付ける努力をしてください。
- ・徒手検査法の技術を臨床現場で発揮できるように基礎を身に付けてください。
- ・実習実技は臨床への重要な学習手段です。全出席を目指し、施術法習得の一環として、確実に基礎が身に付くように弛まぬ努力をしてください。
- ・実習着は常に清潔にし、爪は短くし、装飾品（指輪、ピアスなど）は全て外してください。女子は髪を後ろにまとめてください。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所で施術管理者としての実務経験あり。）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション 柔道整復師業務
2	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（1） 実技編 P5～P9
3	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（2） 実技編 P5～P9
4	運動器系の疼痛を訴える患者の施術：損傷の診察（3） 実技編 P5～P9
5	損傷の診察（視診・問診）
6	損傷の診察（触診）
7	損傷の診察（検査）
8	損傷の診察（評価）
9	体表解剖：上肢触診
10	体表解剖：下肢触診
11	体表解剖：体幹触診
12	ロールプレイングを用いた触診①
13	ロールプレイングを用いた触診②
14	前期まとめ
15	試験解説 まとめ復習
16	徒手整復の実際：骨折整復の基礎（1）
17	徒手整復の実際：骨折整復の基礎（2）
18	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（1）
19	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（2）
20	徒手整復の実際：脱臼整復の基礎（3）
21	軟部組織損傷の初期処置法（1）
22	軟部組織損傷の初期処置法（2）
23	軟部組織損傷の初期処置法（3）
24	軟部組織損傷の初期処置法（4）
25	臨床実習について（1）
26	臨床実習について（2）
27	臨床実習について（3）
28	後期まとめ復習（1）
29	後期まとめ復習（2）
30	試験解説 まとめ復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習 I ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

臨床実習施設（附属施術所他）において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度，そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（予約システム，受付，会計，スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと，臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や，関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し，決められた開始時間の20分前には施設に到着し，10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席，実習記録レポート等の提出物，各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々，臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目，専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後，就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験，学習しましょう。
- ・時間厳守，コンプライアンスを実践し，自己責任を持って行動してください。
- ・「実習の手引き」に記載されている注意事項を厳守してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席，遅刻する場合は，必ず担当教員に連絡をしてください。

9 教員氏名（ 久野 貴史 他 専科教員 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復施術所での施術管理者としての実務経験あり。 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり，臨床実習指導者が現地で担当する。臨床実習指導者は、「柔道整復師専科教員」の有資格者、または、「臨床実習指導者講習会」受講修了者に限る。

科目名 (臨床実習 I)

回数	
	2月～3月の間で、5日～9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

上肢骨折について学び、実践力を備えた人材へと成長を促す。また担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴等を解説する。

2 到達目標

柔道整復師として上肢骨折の診察、治療が行えるようになる知識や技術を身につける。

3 授業の方法

教科書に準じて、板書を基本に授業を進める。また、適宜必要に応じて参考資料の配布を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶が身につくため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

覚えることが多い科目ですが国家試験の出題頻度も高いので、知識と理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (基礎柔道整復学Ⅲ)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折 1
2	鎖骨骨折 2
3	肩甲骨骨折
4	上腕骨骨折 (骨頭骨折・解剖頸骨折)
5	上腕骨骨折 (外科頸骨折 1)
6	上腕骨骨折 (外科頸骨折 2)
7	大結節骨折・小結節骨折
8	上腕骨骨幹部骨折 1
9	上腕骨骨幹部骨折 2
10	上腕骨顆上骨折 1
11	上腕骨顆上骨折 2
12	上腕骨外顆骨折
13	上腕骨内側上顆骨折
14	橈骨近位端部骨折
15	肘頭骨折
16	答案返却および解説
17	橈骨骨幹部骨折
18	尺骨骨幹部骨折
19	モンテギア骨折
20	橈・尺骨両骨骨幹部骨折
21	コーレス骨折
22	スミス骨折
23	バートン骨折・ショーファー骨折
24	舟状骨骨折
25	三角骨骨折・有鉤骨骨折・豆状骨骨折
26	月状骨骨折・大菱形骨骨折・有頭骨骨折
27	中手骨骨折 (骨頭部骨折・頸部骨折・骨幹部骨折) ・ベネット骨折
28	基節骨骨折
29	中節骨骨折
30	末節骨骨折
31	試験対策
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 2年

1 授業の内容

各損傷の復習を行い，理解力を深める

2 到達目標

各損傷を理解し，損傷症状から重症度を判断できるように身に着けることを目標とする

3 授業の方法

配布プリントおよび教科書による講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第7版）

8 学生へのメッセージ

復習を実施し，自己の理解度を確認し，学習方法を確立しましょう

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	頭部の骨折
2	顔面の骨折
3	頸椎の骨折（上位）
4	頸椎の骨折（下位）
5	胸椎の骨折
6	腰椎の骨折
7	胸部の骨折（肋骨骨折）
8	胸部の骨折（肋軟骨骨折）
9	胸部の骨折（胸骨骨折）
10	顎関節の脱臼
11	顎関節の脱臼
12	頸椎の脱臼
13	胸椎の脱臼
14	腰椎の脱臼
15	総復習
16	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

外傷の診察方法，治療法，患者の指導管理を学び，臨床現場に活用できる知識を習得する。

2 到達目標

柔道整復師が業務として取り扱う損傷についての基礎を理解することを目標とする

3 授業の方法

配布プリント、教科書を用いた講義形式で行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」南江堂

8 学生へのメッセージ

今後の柔整師としての活動に非常に必要になるので、しっかりと覚えておくこと。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (基礎柔道整復学Ⅷ)

回数	授業内容
1	柔道整復師業務・骨折、脱臼、軟損の施術
2	損傷の診察(骨折)
3	損傷の診察(脱臼)
4	損傷の診察(軟損)
5	医科との連携・固定期間の検討
6	後療法
7	肩部の診察をする時の考え方(打撃による損傷)
8	肩部の診察をする時の考え方(その他による損傷)

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2 年

1 授業の内容

柔道整復師の資格取得に必要な下肢骨折についての知識を深める。また、担当教員の実務経験を基にした患者への接遇（インフォームドコンセント）、診察方法、施術などの実践力を身に付ける。

2 到達目標

下肢骨折について発生機序、症状（診察内容）、施術方法（整復・固定・後療法など）、予後・注意点などを理解する。

3 授業の方法

柔道整復学（理論編・実技編）などの教科書を用いて行う講義や模範実技による。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%にて評価する

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習を行うと良い。また、実技に関しては忘却しないよう繰り返し復習を行うと良い。

7 使用教材，教具

柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学など

8 学生へのメッセージ

国家試験受験や柔道整復師として従事するために、重要かつ必要な知識のため、深い理解が必要です。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

11 科目名 (臨床柔道整復学Ⅲ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨盤骨骨折 (単独 Fr)
3	骨盤骨骨折 (骨盤輪 Fr)
4	大腿骨近位端部骨折 (骨頭 Fr)
5	大腿骨近位端部骨折 (頸部 Fr)
6	大腿骨近位端部骨折 (転子部 Fr)
7	大腿骨骨幹部骨折①
8	大腿骨骨幹部骨折②
9	大腿骨遠位端部骨折 (顆上 Fr)
10	大腿骨遠位端部骨折 (骨端線離開)
11	大腿骨遠位端部骨折 (顆部 Fr)
12	膝蓋骨骨折
13	予備・復習 (1)
14	予備・復習 (2)
15	予備・復習 (3)
16	試験解説
17	下腿骨近位端部骨折 (脛骨顆部 Fr)
18	下腿骨近位端部骨折 (腓骨頭 Fr)
19	下腿骨骨幹部骨折①
20	下腿骨骨幹部骨折②
21	下腿骨疲労骨折
22	果部骨折①
23	果部骨折②
24	果部骨折③
25	距骨骨折
26	踵骨骨折
27	舟状骨・立方骨・楔状骨骨折
28	中足骨骨折
29	足趾骨折
30	予備・復習 (1)
31	予備・復習 (2)
32	試験解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (臨床柔道整復学Ⅳ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

上肢及び下肢の脱臼についての各論を学習する。担当教員の実務経験を基にした、診察方法、施術などを臨床症状、鑑別なども取り入れて学習する。

2 到達目標

上肢及び下肢の脱臼について発生機序、症状（診察内容）、施術方法（整復・固定・後療法など）、予後・注意点などを理解する。

3 授業の方法

板書を中心に、参考資料等を用いた講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%にて評価する。

5 評価の際の特記事項

授業態度には出席状況、授業態度、小テストの結果などを加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回の授業終了後に復習を徹底する。これから学習する箇所を、教科書を読み、予習をする。

7 使用教材， 教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂
プリント資料

8 学生へのメッセージ

柔道整復術を習得するためには、各損傷の理論を学習し、理解度を深めなければなりません。日々の自学習を徹底し、理解が難しいところは教員に質問し、不明なままで放置しないようにしましょう。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	脱臼総論の復習
2	胸鎖関節前方脱臼
3	肩鎖関節上方脱臼（1）
4	肩鎖関節上方脱臼（2）
5	肩関節脱臼：前方脱臼（1）
6	肩関節前方脱臼（2） 反復性脱臼
7	肩関節後方脱臼、下方脱臼、上方脱臼
8	肩関節脱臼のまとめ
9	肘関節脱臼：前腕両骨脱臼 — 後方脱臼（1）
10	肘関節後方脱臼（2）
11	肘関節前方脱臼、側方脱臼、分散脱臼
12	肘関節脱臼のまとめ
13	橈骨頭単独脱臼、肘内障（1）
14	肘内障（2）
15	前期のまとめ
16	試験解説
17	手関節日の脱臼：遠位橈尺関節脱臼
18	橈骨手根関節脱臼
19	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼
20	手根中手（CM）関節脱臼、第1指中手指節（MP）関節脱臼
21	第1指以外の中手指節（MP）関節脱臼、近位指節間（PIP）関節脱臼
22	遠位指節間（DIP）関節脱臼
23	股関節脱臼（1）
24	股関節脱臼（2）
25	膝蓋骨脱臼
26	膝関節脱臼
27	足部脱臼
28	下肢脱臼のまとめ（1）
29	下肢脱臼のまとめ（2）
30	脱臼全般のまとめ（1）
31	脱臼全般のまとめ（2）
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

実技室を施術所と想定して、物理療法の実技の授業を実施する。また担当教員の実務経験を基に各機器の効果的な使用方法も解説する。

2 到達目標

物理療法の機器の効果を理解し安全に使用することができる。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」南江堂

8 学生へのメッセージ

教員の実体験も交えて授業行います。臨床現場において、物理療法機器は使用頻度の高いものなので、内容を理解し、安全で効果の高い使用方法を学びましょう。

9 教員氏名（ 米田 伸一 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (臨床柔道整復学Ⅸ)

回数	授業内容
1	物理療法の分類
2	低周波電気刺激療法
3	中周波電流療法
4	温熱療法
5	超音波療法
6	光線療法
7	牽引療法
8	総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

軟部組織損傷について、上肢、下肢の各論を学習する。

2 到達目標

損傷の総論を基礎に、軟部組織損傷の各論を理解し、それらの施術方法を学ぶ。

3 授業の方法

各損傷の理論を板書により進め、その治療法の基礎を実技を交えて学習する。

4 成績評価方法

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

毎回の授業終了後、その日のうちに復習すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

臨床の場で遭遇しやすい軟部組織損傷の基礎を学び現場へと活かして欲しいです。

担当教員が実際に現場で経験した症例を交えているので、将来の臨床の場で対応できる知識を習得して下さい。

9 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅱ)

回数	授業内容
1	上肢の軟部組織損傷：肩関節部の軟部組織損傷（1）P350～P361
2	肩関節部の軟部組織損傷（2）P350～P361
3	肩関節部の軟部組織損傷（3）P350～P361
4	肘関節部の軟部組織損傷（1）P361～P365
5	肘関節部の軟部組織損傷（2）P361～P365
6	前腕部の軟部組織損傷（1）P365～369
7	前腕部の軟部組織損傷（2）P365～369
8	前腕部の軟部組織損傷（3）P365～369
9	手関節部の軟部組織損傷（1）P370～P373
10	手関節部の軟部組織損傷（2）P370～P373
11	手部、指部の軟部組織損傷（1）P373～379
12	手部、指部の軟部組織損傷（2）P373～379
13	手部、指部の軟部組織損傷（3）P373～379
14	前期のまとめ1
15	前期のまとめ2
16	定期試験解説
17	下肢の軟部組織損傷：股関節の軟部組織損傷（1）P380～P383
18	股関節の軟部組織損傷（2）P380～P383
19	大腿部の軟部組織損傷（1）P383～P386
20	大腿部の軟部組織損傷（2）P383～P386
21	膝関節の軟部組織損傷（1）P386～P394
22	膝関節の軟部組織損傷（2）P386～P394
23	膝関節の軟部組織損傷（3）P386～P394
24	下腿部の軟部組織損傷（1）P394～396
25	下腿部の軟部組織損傷（2）P394～396
26	足関節部の軟部組織損傷（1）P396～P406
27	足関節部の軟部組織損傷（2）P396～P406
28	足関節部の軟部組織損傷（3）P396～P406
29	後期のまとめ1
30	後期のまとめ2
31	後期のまとめ3
32	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床実習施設において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度，そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（予約システム，受付，会計，スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと，臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や，関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し，決められた開始時間の20分前には施設に到着し，10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席，実習記録，レポート等の提出物，各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々，臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目，専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第7版」

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後，就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験，学習しましょう。
- ・時間厳守，コンプライアンスを実践し，自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席，遅刻する場合は，必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり，臨床実習指導者が現地で担当する。

1 1 授業計画 科目名 (臨床実習Ⅱ)

回数	
	8月～9月の間で、9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

臨床実習施設において、見学実習を主体とした臨床実習を、実務経験のある教員、臨床実習指導者の指導の下、行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度、そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（予約システム、受付、会計、スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと、臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や、関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し、決められた開始時間の20分前には施設に到着し、10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席、実習記録、レポート等の提出物、各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々、臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目、専門科目）を学習する。

7 使用教材、教具

「実習の手引き」

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編第7版」

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後、就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験、学習しましょう。
- ・時間厳守、コンプライアンスを実践し、自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席、遅刻する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり）

10 特記事項

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり、臨床実習指導者が現地で担当する。

1 1 科目名 (臨床実習Ⅲ)

回数	授業計画
	2月～3月の間で、9日間（45時間）の臨床実習を行う。

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

これまでに学習した軟部組織損傷の発生機序、症状、治療法の復習と運動学をベースとした後療法の実践方法を学ぶ。

実務経験のある教員による臨床に対応できる基礎技術を学ぶ。

2 到達目標

軟部組織損傷の発生機序、症状、治療法を理解する。

人体の基本的構造を理解し、治療方法のプログラムを組立てることができる。

3 授業の方法

板書を中心とした講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回授業の終了後にその日の授業内容を復習すること。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

外傷の各論を理解し、その治療法の基礎を身に着けることで、応急手当につながります。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術管理者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業

1 1 科目名 (基礎柔道整復学V)

回数	授業内容
1	柔道整復術における診察
2	肩腱板損傷
3	上腕二頭筋長頭腱損傷
4	野球肩 (リトルリーガー肩を含む)
5	肩部の診察術
6	上腕部における神経障害
7	テニス肘
8	野球肘
9	前腕部の腱鞘炎
10	腱交叉症候群
11	手根骨における障害 (外傷、壊死、非外傷性を含む)
12	手指部における退行性変性
13	上肢の診察 (復習)
14	上肢の診察の実技練習 1
15	上肢の診察の実技練習 2
16	試験解説
17	鼠径部痛症候群
18	小児の股関節疾患
19	股関節から大腿部における神経障害
20	大腿四頭筋肉離れ
21	大腿ハムストリングス
22	膝半月板損傷
23	膝側副靭帯損傷
24	膝前十字靭帯損傷
25	股関節から大腿部診察術
26	下腿部から足部における神経障害
27	下腿肉離れ
28	足関節捻挫
29	下肢の診察 (復習)
30	下肢の診察の実技練習 1
31	下肢の触診の実技練習 2
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学VI ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師として業務に必要な外傷一般に対する実践的な知識を深めるため、実務経験のある教員による基礎学習を行う。

2 到達目標

柔道整復師として外傷一般に対する診察、治療、鑑別についての基礎的知識を習熟する。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、担当教員の実務経験を基に実務に必要な技術、知識の基礎的要素の習得を促す。国家試験過去問題集も使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前の教科書熟読、対応する国家試験問題の予習をしてもらうこと。授業後も復習をしてもらう

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として施術を行うためには本当に多くの知識が必要であると実感している。教科書はその修得のための基礎的なバイブルであり、国家試験問題はその中でも重要なエッセンスを抽出した重要な臨床の指針と考える。そしてこれらを習得することが臨床力の向上につながるという担当教員の実体験も交えて、国家試験にも対応できる授業内容としていく。

9 教員氏名（ 林 慶彰 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (基礎柔道整復学VI)

回数	授業内容
1	先天性疾患と後天性疾患の鑑別
2	退行性病変の鑑別
3	循環障害の鑑別
4	炎症の鑑別
5	腫瘍の鑑別
6	健康の概念
7	疫学的思考
8	衛生統計
9	医療廃棄物の処理
10	運動の法則
11	運動感覚
12	姿勢
13	運動発達と運動学習
14	外科感染症の鑑別
15	輸血・輸液
16	テスト返却及び解説
17	移植と免疫
18	心肺蘇生法
19	胸部外科疾患の鑑別
20	運動器の基礎知識
21	骨および軟部腫瘍の鑑別
22	全身性の骨・軟部疾患の鑑別
23	スポーツ障害の鑑別
24	身体各部位各論・体幹疾患の鑑別
25	身体各部位各論・骨盤・下肢疾患の鑑別
26	医療面接
27	打診
28	呼吸器疾患の鑑別
29	消化器疾患の鑑別
30	血液疾患の鑑別
31	性病の鑑別
32	テスト返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復師として、業務に必要な外傷一般に対する実践的な知識を深めるため、実務経験のある教員による基礎学習を行う。

2 到達目標

柔道整復師として外傷一般に対する診察、治療、鑑別についての基礎的知識を習熟する。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、担当教員の実務経験を基に業務に必要な技術、知識の基礎的要素の習得を促す。国家試験過去問題集も使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業前の教科書熟読、対応する国家試験問題の予習をしてくること。授業後も復習をしてもらう

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

柔道整復師として施術を行うためには本当に多くの知識が必要であると実感している。教科書はその修得のための基礎的なバイブルであり、国家試験問題はその中でも重要なエッセンスを抽出した重要な臨床の指針と考える。そしてこれらを習得することが臨床力の向上につながるという担当教員の実体験も交えて、国家試験にも対応できる授業内容としていく。

9 教員氏名（ 林 慶彰 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (基礎柔道整復学Ⅶ)

回数	授業内容
1	病因による鑑別
2	代謝障害の鑑別
3	進行性病変の鑑別
4	免疫異常の鑑別
5	先天性異常の鑑別
6	疾病予防
7	感染症対策
8	成人保健
9	消毒
10	運動器の構造と機能
11	反射と随意運動
12	四肢と体幹の運動
13	損傷と創傷と熱傷
14	ショック
15	消毒と滅菌
16	試験返却及び解説
17	出血と止血
18	脳神経外科疾患の鑑別
19	腹部外科疾患の鑑別
20	整形外科的検査法
21	非感性感性軟部・骨関節疾患の鑑別
22	感性感性疾患の鑑別
23	スポーツ外傷の鑑別
24	身体各部位各論・肩甲骨・上肢疾患の鑑別
25	問診
26	視診
27	聴診
28	循環器疾患の鑑別
29	代謝疾患の鑑別
30	内分泌疾患の鑑別
31	膠原病の鑑別
32	試験返却及び解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

脱臼について、総論から各論を全体的に学び、実務経験のある教員による臨床現場を想定できる応用技術を学ぶ。

2 到達目標

認定実技審査や柔道整復師国家試験の受験に必要な知識・技能を深め、臨床の場での確に施術を実践できるような行動力を身につける。

3 授業の方法

担当教員の実務経験を基に、柔道整復学（理論編・実技編）、包帯固定学などを用いての講義や実践に大切な治療方法などの知識を深め、技能を身につける

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%にて評価する

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿って教科書の予習・復習を行うと良い。技術は忘却しないよう、練習を重ねると良い。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編第7版」 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・実技編第2版」 南江堂

全国柔道整復学校協会監修 「包帯固定学」 南江堂

8 学生へのメッセージ

脱臼は認定実技試験や国家試験受験及び臨床の場においてとても重要です。より理解を深め、認定実技試験、国家試験、臨床の場に臨んでいただきたい。

9 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所で施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (臨床柔道整復学V)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	胸鎖関節脱臼
3	肩鎖関節脱臼①
4	肩鎖関節脱臼②
5	肩関節脱臼①
6	肩関節脱臼②
7	肩関節脱臼③
8	肘関節脱臼①
9	肘関節脱臼②
10	肘関節脱臼③
11	肘内障①
12	肘内障②
13	予備・復習
14	予備・復習
15	予備・復習
16	試験解説
17	手関節脱臼①
18	手関節脱臼②
19	CM、MP 関節脱臼
20	PIP,DIP 関節脱臼
21	股関節脱臼①
22	股関節脱臼②
23	膝蓋骨脱臼
24	膝関節脱臼
25	足部脱臼
26	足指の脱臼
27	脱臼総論①
28	脱臼総論②
29	脱臼総論③
30	予備・復習
31	予備・復習
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学VI ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

2年次に学習した各組織損傷の各論を復習する。また、国家試験必修問題対策として柔道、医療倫理、社会保障制度、医療費、関係法規などについて復習する。
実務経験のある教員による実技演習を主体に行う。

2 到達目標

各損傷への理解を深め、施術につながる治療法の理論を習得する。

3 授業の方法

板書を中心とした授業

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況を加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回の授業終了後に復習を行うこと。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

全国柔道整復協会監修「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会監修「包帯固定学」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

解らない内容は放置せずに、質問をして理解力を身に着けるようにしてください。

8 教員氏名（ 久野 貴史 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学VI ）

回数	授業内容
1	鎖骨骨折（診察・整復法・固定法）
2	上腕骨外科頸骨折（診察・整復）、上腕骨骨幹部骨折（固定法）
3	コーレス骨折（診察・整復・固定法）
4	中手骨頸部骨折（固定法）、下腿骨骨幹部骨折（固定法）、肋骨骨折（固定法）
5	肩鎖関節情報脱臼（診察・整復法・固定法）
6	肩関節前方脱臼（診察・整復法・固定法）
7	肘関節後方脱臼（診察・整復法・固定法）
8	肘内障（診察・整復法）、示指PIP関節背側脱臼（固定法）
9	腱板損傷（診察・検査法）、上腕二頭筋長頭腱損傷（診察・整復法）
10	大腿部打撲（診察・検査法）、大腿部肉離れ（診察・整復法）
11	膝関節側副靭帯損傷（診察・検査法）、膝関節十字靭帯損傷（診察・検査法）
12	膝関節半月場板損傷（診察・検査法）、膝関節側副靭帯損傷（固定）
13	下腿三頭筋肉離れ（診察・検査法）、アキレス腱断裂（固定法）
14	足関節外側側副靭帯損傷（診察・検査法・固定法）
15	足関節外側側副靭帯損傷（テーピング法）
16	試験解説
17	柔道の理念・礼法・歴史
18	医療倫理・患者の権利
19	リスクマネジメント・医療事故と医療過誤
20	社会保険制度・社会福祉制度
21	医療費・療養費
22	柔道整復師法
23	関係法規
24	包帯法
25	骨折の診察・整復（復習）
26	脱臼の診察・整復（復習）
27	軟部組織損傷の診察・検査（復習）
28	骨折の固定（復習）
29	脱臼の固定（復習）
30	軟部組織損傷の固定（復習）
31	テーピング固定（復習）
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3 年

1 授業の内容

担当教員の実務経験を基に、臨床現場においてより素早くより正確に疾患を発見できる能力を身に付けさせ、さらなる知識や技能の習得をはかる。

2 到達目標

人体解剖学に基づく名称や触診部位の説明ができるようになる。また人体構造とその機能に関する知識の習得をはかる。

3 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修「柔道整復学・理論編」（第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

一度学んでいる分野だとは思いますが、国家試験、また卒後の臨床にも使える為にも、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅶ ）

回数	授業内容
1	骨折の分類 P23～
2	骨折の症状 P31～
3	骨折の合併症 P34～
4	小児骨折、高齢者 P39～
5	骨折の癒合日数 P42～
6	骨折の治癒経過 P43～
7	骨折の予後 P45
8	骨折の治癒に影響を与える因子 P45～
9	鎖骨骨折 P174～
10	肩甲骨骨折 P179～
11	上腕骨近位部の骨折 P181～
12	上腕骨骨幹部の骨折 P188～
13	上腕骨遠位部の骨折 P193～
14	前腕骨近位部の骨折 P203～
15	前腕骨骨幹部の骨折 P208～
16	試験返却および解説
17	前腕骨遠位端部の骨折 P217～
18	手根骨部の骨折 P224～
19	中手骨部の骨折 P230～
20	指骨の骨折 P237～
21	骨盤骨骨折 P245～
22	大腿骨近位部の骨折 P249～
23	大腿骨骨幹部の骨折 P256～
24	大腿骨遠位端部の骨折 P258～
25	下腿近位端部の骨折 P265～
26	下腿骨幹部の骨折 P271～
27	下腿遠位部の骨折 P278～
28	足根骨の骨折（距骨・踵骨） P283～
29	足根骨の骨折 P288～
30	中足骨の骨折・趾骨の骨折 P290～
31	総復習
32	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

柔道整復術の適応を様々な角度から診ることで適応疾患と適応外疾患の対応を学ぶ。
また、担当教員の実務経験を基にした外傷の注意点等も含めた授業を行う。

2 到達目標

柔道整復術の適応疾患と適応外疾患を見極めるようになる。また、適応外の対応が出来るようになる。

3 授業の方法

講義形式を中心とする。授業時に配布する資料を参考に使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会監修「施術の適応と医用画像の理解」南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験のみならず卒業後の臨床に使えるために、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (臨床柔道整復学Ⅷ)

回数	授業内容
1	柔道整復術の適否を考える
2	損傷に類似した症状を示す疾患
3	血流障害を伴う損傷
4	末梢神経損傷を伴う損傷
5	脱臼骨折
6	外出血を伴う損傷 骨折
7	外出血を伴う損傷 脱臼
8	病的骨折および脱臼
9	意識障害を伴う損傷
10	脊髄症状のある損傷呼吸運動障害を伴う損傷
11	内臓損傷の合併が疑われる損傷
12	高エネルギー外傷 骨折
13	高エネルギー外傷 脱臼
14	柔道整復術範囲外の対応
15	授業のまとめと復習
16	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

軟部組織損傷の各論を復習し、実務経験のある教員による授業展開を行い、さらに理解力を深める。

2 到達目標

柔道整復師が臨床で多く接する軟部組織損傷の各損傷を学びなおし、さらに理解できるようにする。

3 授業の方法

板書を中心とした授業を行い、実技を交えてそれらの実際を確認する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80% 授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度には出欠席状況も加味する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回の授業終了後に必ず復習すること。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

不明な点は取り残さないようにし、質問をして理解をするようにしてください。

8 教員氏名（ 中野 仁 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科）

実務経験の詳細（ 有 ： 柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 柔道整復実技Ⅲ ）

回数	授業内容
1	上肢の軟部組織損傷：肩関節部の軟部組織損傷（1）
2	肩関節部の軟部組織損傷（2）
3	肩関節部の軟部組織損傷（3）
4	肘関節部の軟部組織損傷（1）
5	肘関節部の軟部組織損傷（2）
6	前腕部の軟部組織損傷（1）
7	前腕部の軟部組織損傷（2）
8	前腕部の軟部組織損傷（3）
9	手関節部の軟部組織損傷（1）
10	手関節部の軟部組織損傷（2）
11	手部、指部の軟部組織損傷（1）
12	手部、指部の軟部組織損傷（2）
13	手部、指部の軟部組織損傷（3）
14	前期のまとめ1
15	前期のまとめ2
16	定期試験解説
17	下肢の軟部組織損傷：股関節の軟部組織損傷（1）
18	股関節の軟部組織損傷（2）
19	大腿部の軟部組織損傷（1）
20	大腿部の軟部組織損傷（2）
21	膝関節の軟部組織損傷（1）
22	膝関節の軟部組織損傷（2）
23	膝関節の軟部組織損傷（3）
24	下腿部の軟部組織損傷（1）
25	下腿部の軟部組織損傷（2）
26	足関節部の軟部組織損傷（1）
27	足関節部の軟部組織損傷（2）
28	足関節部の軟部組織損傷（3）
29	後期のまとめ1
30	後期のまとめ2
31	後期のまとめ3
32	定期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1. 授業の内容

臨床現場においてより素早くより正確に疾患を発見できる能力を身に付けるために、担当教員の実務経験を基に様々な症例を比較しながら、人体構造や人体の仕組みについて解剖学や生理学を含めた学習を行う。

2. 到達目標

人体解剖学に基づく名称や触診部位の説明ができるようになる。また人体構造とその機能に関する知識の習得をはかる。

3. 授業の方法

ホワイトボードによる講義を中心とし、分野毎にまとめた小テスト実施等により理解度の確認を行う。

4. 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5. 評価の際の特記事項

特になし。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業の復習により長期記憶に置き換わるため教科書を反復学習し、わからない部分を無くしていくことを推奨する。

7. 使用教材

全国柔道整復学校協会監修「解剖学」（改訂第2版）
配布プリント

8. 学生へのメッセージ

一度学んでいる分野だとは思いますが、国家試験、また卒後の臨床にも使える為にも、より深い理解が出来るよう取り組んでください。

9. 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10. 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅳ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨の形態と機能①体幹
3	骨の形態と機能②上肢
4	骨の形態と機能③下肢
5	筋の構造と機能①体幹
6	筋の構造と機能②上肢
7	筋の構造と機能③下肢
8	血管の構造と機能①頭部・体幹
9	血管の構造と機能②上肢
10	血管の構造と機能③下肢
11	神経の構造と機能①頭部・体幹
12	神経の構造と機能②上肢
13	神経の構造と機能③下肢
14	痛みの種類とメカニズム
15	前期まとめ
16	答案返却及びその解説授業
17	上肢骨折での触診部位・神経疾患①肩部～肘部
18	上肢骨折での触診部位・神経疾患②前腕部～指部
19	上肢脱臼での触診部位・神経疾患①肩関節・肘関節
20	上肢脱臼での触診部位・神経疾患②手関節・指関節
21	上肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患①肩部～肘部
22	上肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患②前腕部～指部
23	下肢骨折での触診部位・神経疾患①骨盤部～膝部
24	下肢骨折での触診部位・神経疾患②下腿部～趾部
25	下肢脱臼での触診部位・神経疾患①股関節・膝関節
26	下肢脱臼での触診部位・神経疾患②足関節・趾関節
27	下肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患①骨盤部～膝部
28	下肢軟部組織損傷での触診部位・神経疾患②下腿部～趾部
29	頭部・顔面部損傷での触診部位・神経疾患①第Ⅻ脳神経の機能
30	頭部・顔面部損傷での触診部位・神経疾患②第Ⅻ脳神経の圧痛点
31	後期まとめ
32	答案返却及びその解説授業

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅴ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3年

- 1 授業の内容
主に認定実技審査内容の診察・整復、固定の内容について理解を深めるため、担当教員の実務経験を基に、実技形式で行う。
- 2 到達目標
主に認定実技審査の内容に対して理解を深め、技能を高め、国家試験合格に必要な知識を得る。
- 3 授業の方法
実技編・理論編の教科書を用いて知識を習得し、担当教員の実務経験を基にした実践において必要な技術の向上を促す。また、模擬的に技能の習得の確認なども行う。
- 4 成績評価方法・基準
定期試験 100%にて評価を行う
- 5 評価の際の特記事項
特になし。
- 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
予習・復習は非常に大切で、特に技能向上のためには繰り返しの自主的な練習は必要不可欠である。
- 7 使用教材， 教具
全国柔道整復協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂
全国柔道整復協会監修「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂
全国柔道整復協会監修「包帯固定学」（改訂第2版）南江堂
- 8 学生へのメッセージ
認定実技審査への合格、国家試験の合格のためには、多くの知識・技能が必要です。より高い技術力を得られるように修練し、深い知識が得られるように学習しましょう。
- 9 教員氏名（ 久野 貴史 ）
所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）
実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所で施術者として実務経験あり ）
- 10 特記事項
実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (柔道整復実技V)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	包帯の基礎
3	足関節外側側副靭帯損傷 (副子固定)
4	足関節外側側副靭帯損傷 (副子固定)
5	下腿骨幹部骨折 (副子固定)
6	下腿骨幹部骨折 (副子固定)
7	アキレス腱断裂 (副子固定)
8	アキレス腱断裂 (副子固定)
9	上腕骨骨幹部骨折(三角副子固定)
10	上腕骨骨幹部骨折(三角副子固定)
11	肋骨骨折(副子固定)
12	肋骨骨折(副子固定)
13	第5中手骨頸部骨折 (アルミ固定)
14	第5中手骨頸部骨折 (アルミ固定)
15	第2指 PIP 関節背側脱臼(アルミ固定)
16	第2指 PIP 関節背側脱臼(アルミ固定)
17	足関節外側側副靭帯損傷 (副子固定) 復習
18	足関節外側側副靭帯損傷 (副子固定) 復習
19	下腿骨幹部骨折 (副子固定) 復習
20	下腿骨幹部骨折 (副子固定) 復習
21	アキレス腱断裂 (副子固定) 復習
22	アキレス腱断裂 (副子固定) 復習
23	上腕骨骨幹部骨折(三角副子固定)復習
24	上腕骨骨幹部骨折(三角副子固定)復習
25	肋骨骨折(副子固定)復習
26	肋骨骨折(副子固定)復習
27	第5中手骨頸部骨折 (アルミ固定) 復習
28	第5中手骨頸部骨折 (アルミ固定) 復習
29	第2指 PIP 関節背側脱臼(アルミ固定)復習
30	第2指 PIP 関節背側脱臼(アルミ固定)復習
31	予備・復習
32	予備・復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技VI ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

これまでに習得した柔道整復術の整復、固定を患者と施術者に分かれて実技を繰り返し行う。担当教員の実務経験をもとに、臨床に即した施術法を実践する。

2 到達目標

骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する柔道整復術の整復および固定を早く、丁寧に行うことができるようになる。

3 授業の方法

担当教員の実務経験を活かし、現場で必要な固定術の技術習得を促す。
固定材料（軟性、硬性）を用い整復と固定を授業毎にテーマを決めて行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布している資料を基に自主練習の復習を行うこと。実技は簡単に身につくものではないので繰り返し練習し定着させる必要がある。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂
全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

実技は繰り返して練習しなければ身に付きません。自主的に練習し、不明な点は必ず質問して、理解するようにしてください。

8 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (柔道整復実技VI)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折の診察、整復
2	上腕骨外科頸骨折の診察、整復
3	コーレス骨折の診察、整復
4	肩鎖関節上方脱臼の診察、整復
5	肩関節前方烏口下脱臼の診察、整復
6	肘関節後方脱臼の診察、整復
7	肘内障の診察、整復
8	肩腱板損傷の診察、検査法
9	上腕二頭筋長頭腱損傷の診察、検査法
10	ハムストリングス損傷、下腿三頭筋損傷の診察、検査法
11	大腿四頭筋打撲の診察、検査法
12	膝関節側副靭帯損傷の診察、検査法
13	膝関節十字靭帯損傷の診察、検査法
14	膝関節半月板損傷の診察、検査法
15	足関節外側靭帯損傷の診察、検査法
16	試験解説
17	骨折の診察、整復全般 1
18	脱臼の整復全般 1
19	軟部組織損傷の診察全般 1
20	骨折の整復全般 2
21	脱臼の整復全般 2
22	軟部組織損傷の診察全般 2
23	実技演習 1
24	実技演習 2
25	実技演習 3
26	実技演習 4
27	実技演習 5
28	実技演習 6
29	実技演習 7
30	実技演習 8
31	実技演習 9
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 3年

1 授業の内容

主に全身の脱臼の内容を扱う。認定実技審査や国家試験、資格取得後の施術方法について、担当教員の実務経験を基に、理解を深め、技能を高める。

2 到達目標

脱臼という関節構成組織損傷のおける、診察・施術（整復・固定・後療法）、注意点などについて理解を深め、認定実技審査、国家試験に臨める知識・技能を身につける。

3 授業の方法

脱臼について、患者の来院から診察・徒手検査、整復、固定、後療法などの一連の流れを実技形式で実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価する。併せて、認定実技審査の合格が必須となる。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技術を身につけるために授業は実践的に取り組み、練習や自己学習を繰り返して知識を深めることが大切です。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会監修「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂
全国柔道整復協会監修「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂
全国柔道整復協会監修「包帯固定学」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

認定実技審査は、柔道整復師を目指す学生にとって重要な実技審査であり、また国家試験対策としても重要です。しっかりと学習に取り組み理解を深めましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅶ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	肩鎖関節上方脱臼 (診察)
3	肩鎖関節上方脱臼 (整復)
4	肩鎖関節上方脱臼 (固定)
5	肩関節前方脱臼 (診察)
6	肩関節前方脱臼 (整復)
7	肩関節前方脱臼 (固定)
8	肘関節後方脱臼 (診察)
9	肘関節後方脱臼 (整復)
10	肘関節後方脱臼 (固定)
11	肘内障 (診察)
12	肘内障 (整復)
13	肘内障 (固定)
14	予備・復習
15	予備・復習
16	試験解説
17	PIP 関節背側脱臼
18	第 1MP 関節背側脱臼
19	股関節後方脱臼
20	膝蓋骨側方脱臼
21	足趾の脱臼
22	顎関節脱臼
23	肩鎖関節脱臼復習①
24	肩鎖関節脱臼復習②
25	肩関節脱臼復習①
26	肩関節脱臼復習②
27	肘関節後方脱臼復習①
28	肘関節後方脱臼復習②
29	肘内障復習①
30	肘内障復習②
31	予備・復習
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

主に認定実技審査内容の診察・整復・固定の内容について、知識や技能を深めるため、担当教員の実務経験を基に実技形式で行う。

2 到達目標

主に認定実技審査の内容に対して知識や技能を深め、国家試験合格に必要な知識を習得する。

3 授業の方法

実技編・理論編の教科書を用い、知識を習得し、実践において技術の向上を図る。模擬的に技能の習得の確認なども行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験にて評価を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

予習・復習は非常に大切で、特に技能向上のためには繰り返しの自主的な練習は必要不可欠である。

7 使用教材、教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂
全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第7版）南江堂

8 学生へのメッセージ

認定実技審査、国家試験の合格に向けて、知識・技能の向上に努めましょう。

9 教員氏名（ 梅崎 航 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験（ 有 ：柔道整復師施術所において施術者としての実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

1 1 科目名 (柔道整復実技Ⅷ)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折整復法①
2	鎖骨骨折整復法②
3	コーレス骨折整復法①
4	コーレス骨折整復法②
5	肩腱板損傷診察法①
6	肩腱板損傷診察法②
7	上腕骨外科頸骨折整復法①
8	上腕骨外科頸骨折整復法②
9	上腕二頭筋長頭腱損傷診察法①
10	上腕二頭筋長頭腱損傷診察法②
11	ハムストリングス損傷診察法①
12	ハムストリングス損傷診察法②
13	大腿四頭筋打撲診察診察法①
14	大腿四頭筋打撲診察診察法②
15	総復習
16	試験返却および解説
17	下腿三頭筋損傷診察法①
18	下腿三頭筋損傷診察法②
19	足関節外側靭帯損傷診察法①
20	足関節外側靭帯損傷診察法②
21	足関節外側靭帯損傷固定法① (局所副子固定)
22	足関節外側靭帯損傷固定法② (局所副子固定)
23	本番形式での実技練習 1
24	本番形式での実技練習 2
25	本番形式での実技練習 3
26	本番形式での実技練習 4
27	本番形式での実技練習 5
28	本番形式での実技練習 6
29	本番形式での実技練習 7
30	本番形式での実技練習 8
31	総復習
32	試験返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1. 授業の内容

柔道整復師として必要な整復固定の知識、技能について学習する。また、担当教員の実務経験を基に外傷の説明や整復固定の注意点等の説明も行う。

2. 到達目標

臨床に必要な知識・技能を身につける。

3. 授業の方法

教科書を中心とした講義や実技。及び各項目終了後に課題を行う。

4. 成績評価方法・基準

定期試験 80%、授業態度 20%

5. 評価の際の特記事項

質問への返答、課題に対する理解度。

6. 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

7. 使用教材，教具

全国柔道整復学校協会監修 「柔道整復学・理論編」（改定第7版）南江堂

8. 学生へのメッセージ

整復固定は柔道整復師の業務を行うにあたりとても大事な所なので、しっかり勉強して下さい。

9. 教員氏名（ 宮田 哲弘 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所にて施術管理者として実務経験あり ）

10. 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (柔道整復実技IX)

回数	授業内容
1	鎖骨定型的骨折 (触診・鑑別・整復・固定)
2	上腕骨外科頸骨折 (触診・鑑別・整復・固定)
3	コーレス骨折 (触診・鑑別・整復・固定)
4	肩鎖関節上方脱臼 (触診・鑑別・整復・固定)
5	肩関節前方脱臼 (触診・鑑別・整復・固定)
6	肘関節後方脱臼 (触診・鑑別・整復・固定)
7	肘内障 (触診・鑑別・整復・固定)
8	肩腱板損傷 (触診・鑑別・固定)
9	上腕二頭筋長頭腱損傷 (触診・鑑別・固定)
10	ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲 (触診・鑑別・固定)
11	膝関節側副靭帯損傷 (触診・鑑別・固定)
12	膝関節十字靭帯損傷 (触診・鑑別・固定)
13	膝関節半月板損傷 (触診・鑑別・固定)
14	下腿三頭筋損傷 (触診・鑑別・固定)
15	足関節外側靭帯損傷 (触診・鑑別・固定)
16	後期試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

臨床実習施設において、見学実習を主体とした臨床実習を行う。

2 到達目標

- ・臨床現場における適切な行動・態度，そして責任感を修得することを目標とする。
- ・施術および施術所の運営（予約システム，受付，会計，スタッフとのコミュニケーション等）についても見学する。

3 授業の方法

- ・各臨床実習施設の臨床実習指導者の指示のもと，臨床現場に即した行動を実践する。
- ・実際の施術の現場や，関連する仕事の様子を見学する。一連の業務内容を理解して柔道整復師としての基本的姿勢を身に付ける。
- ・臨床実習は異なる施設で実施される。臨床実習施設へは各自が公的交通手段を利用し，決められた開始時間の20分前には施設に到着し，10分前には着替えを終了しなければならない。

4 成績評価方法・基準

出席，実習記録，レポート等の提出物，各指導者による評価を総合して最終評価とする。

5 評価の際の特記事項

毎回のレポート提出は評価の基準となる。

6 授業時間外学習

日々，臨床実習に必要な基礎知識（専門基礎科目，専門科目）を学習する。

7 使用教材，教具

「実習の手引き」

8 学生へのメッセージ

- ・資格取得後，就職先で実務を実践することを念頭に置いて体験，学習しましょう。
- ・時間厳守，コンプライアンスを実践し，自己責任を持って行動してください。
- ・体調不良や交通機関のトラブルなどで欠席，遅刻する場合は，必ず担当教員に連絡をしてください。無断欠席や遅刻は評価に影響します。

9 教員氏名（ 梅崎 航 以下臨床実習指導者 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 スポーツ柔整科 ）

実務経験の詳細（ 有 ：柔道整復施術所の施術者として実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験を有する教員が臨床実習調整者となり，臨床実習指導者が現地で担当。

1 1 授業計画 科目名 (臨床実習Ⅳ)

回数	
	8月中の期間で、5日～7日間（45時間）の臨床実習を行う。